NIE実践報告

1．タイトル：☆「世界が見える!日本が見える!」新聞を読破しよう!

2．学校名

大阪府千里国際学園高等部

3．実践者名（代表者名）

増尾美恵子

4．学年

（10年生）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

比較文化学（社会科）　81人

6．単元（本時の学習課題）名

世界の情勢や時代の流れを認識する

7．目標(狙い)

日々の今、どのようなに世界が変わりつつあるのか、また何が起こっているのか政治･経済･文化･ジャンルを問わずに、多いに新聞を通じてアンテナを張り巡らし時事問題ノートを作成する。

8．評価の視点

インターナショナルな我校生徒が将来、世界に羽ばたく時を思うとき、世界情勢や時代の流れを認識しておく必要性が多々ある。そのうえで個々のテーマを考え、分析し自分の意見がまとめられる力があるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

秋学期　週1時間　13時間から14時間　　10年生　20人前後×4クラス

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①導入時間としてNIEの意義を説明し、今学期の学習のしおり(NIEをするにあたりの今学期の全体テーマと秋学期の予定など)と時事問題ノートの指針となる「個人シート」を配布(5W1Hを中心にしたまとめ方の目印)　1時間
②クラス時間での新聞を個々のテーマ別に新聞を読み進める。切抜きをしたり分析や自分の意見を書く。できれば時間内に読破をめざす。　10時間
③日本経済新聞社への校外学習を実施。　10月22日(水)新聞社見学をすることでNIEがもっと身近に感じられたようである。　1日(学校と学年と他教科の協力で実現)
④比較文化学の確認考査の中で新聞の一覧性を見るためにもテストの中に「時事問題」を課した。　1時間
⑤最後の授業では振り返りシートの作成とNIEを終えての感想の交換。　1時間
(留意点)　①世界からの帰国生や外国人生徒が多く、世界が他校より身近な分、正しい国際社会について認識させることに重点を置く。
②新聞の一覧性を重視させ、情報を好き嫌いで選別せずに全てを知ることを指導する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①新聞の楽しさをドンドン学んで生きたい　②わからない時には常に先生が助けに来てくれる授業環境も良かった　③時間があったらこれも書きたい、あれも書きたいという記事が多かったので少し残念　④読んだ記事は良い情報として蓄積されたと思う　⑤ノートに書いているとき自分が新聞記者になったようで楽しかった

12．成果と課題

世界からの帰国生や外国人生徒も多い我が校では世界情勢には敏感な英知を感じます。NIEの成果がはっきりと目に見えることも多々あった。
授業が週1回であったため一つの記事の追跡が困難なこともあった。しかし他のマスメデイアなどで課題を臨機応変に生徒たちは活用して自身のテーマに生かしている点は評価すべき産物であった。
考査(テスト)にも時事問題を加えることで新聞の一覧性の特質おも生かせたと自負している。できれば公開授業も開きたいですし、NIEのあらゆる斬新な講義を考えなくてはと考えております。